



8. 本社モビリティ・サービス部門に営業業務支援室を発足することにより、各支社マルス指令室及びその業務がどのように変化するか明らかにすること。

会社回答の特徴

- 各支社のマルス指令業務を営業業務支援室に一元化する。インフラが必要なので、設置箇所は検討している。
- マルス指令の業務は現行のまま。役割を変えるつもりはない。
- 現場から輸送指令を介して対応することや、各支社で管理委託駅の対応など特徴的に行っていることもある。スピードを落とさないように対応していくことを検討していく。

10. 総合車両センターの年間業務計画について、年度途中で所属が変わることに伴い変更があるのか明らかにすること。

会社回答の特徴

- 年間計画は入場計画で行うものなので、変更はない。
- 車両センター・総合車両センターに関する提案は「各本部」「新潟支社」から行う。
- 線区別のライン管理により車両の所属箇所が変わるわけではない。車両の置き換えなど最適なタイミングで行う。

12. 工事事務所をマネジメントオフィス等に変更する理由を明らかにすること。また、業務内容及び業務範囲について変更があるのか明らかにすること。

会社回答の特徴

- 工事事務所は、施設と電気を共通的に行ってきた。施設は、プロジェクトのマネジメント。電気は、システム化が進んでいる。業務内容に合わせて名称を変更する。地方機関としての位置づけは変わらない。
- 工事事務所は、工事をスピーディーにおこなえるように体制を変えるが、役割は大きく変わらない。
- 電気システムインテグレーションオフィスは、今ある各技術管理センター部門を移設し、業務の内容を拡大していく。

13. JR東日本健康推進センターの現業機関とする箇所について、鉄道健診センター以外にあるのか明らかにすること。

14. JR東日本健康推進センター、JR東京総合病院、JR仙台病院における働き方が変化するか明らかにすること。また、各医療機関間における兼務があるのか明らかにすること。

会社回答の特徴

- 医療部門は社員数規模も少ないことから、分散しているより集約した方が技術継承にもいいと考える。共通のものを大井町の健康推進センターに集約する。人材育成もしっかり行いたい。
- 医適・運適などは、これまで同様に支社で行っていく。
- 仙台病院は健診部門と密接につながっていることから、健診センターは仙台病院との兼務となるだろう。
- 医療従事者の人材確保は当社だけでなく課題としてあると認識している。採用戦略としてエリアを配慮しなければならないと考える。